

地方分権改革シンポジウム

地方の提案で国の制度が変わる

「パネルディスカッション」

提案募集方式による地方分権改革の成果と展開

～ 十勝バスの40年ぶりの利用者増加の取組みより ～



平成30年3月19日(月)

十勝バス株式会社

代表取締役社長 野村 文吾

(2) 提案募集方式の地方分権 改革における意義について

十勝バスのこれまでの取り組み

路線バス沿線住民宅に戸別訪問

市内循環バス 利用増へ沿線住民訪問



バス路線の説明に歩く野村社長（左）

「肌でニーズ知ること大事」

野村社長は17日午後から柏林台公園付近の住宅を10戸回った。バスの行き先や、既存路線バスに乗り継ぐ時に100円安くなる割引制度についてチラシを持って住民に直接説明。「乗車時間や行き先を知らなかった」などの反応があった。野村社長は「肌でニーズを知ることが大事。買い物など目的別に移動手段として路線バスを提案して利用者を増やしたい」と話していた。（関坂典生）

勝バス（帯広市、野村文吾社長）は17日午後、循環バスの利用者を増やそうと、同社役員が沿線の居住者に直接訪問を始めた。循環バスは9年9月に運行を開始したが、1便当たりの乗客は12人程度と低迷しており、地域住民の声を直接聞くことで利便性を上げるヒントを探っている。

どうして、バスに乗って頂けないのですか？

帯広市のバスについて



バスの乗り方

- 小銭をご用意ください。運賃箱から「おつり」は出ません。車内では50円から1,000円まで両替できます。
- 運賃は降りる際にお支払いください。（当地区は乗車回数券のみ有効です。）
- 「212マ」と「112マ」のバスがあります。212マのバスは中央のドアから降り、112マのバスは前方のドアから降ります。

